

《学習の流れ》

実施時期 4月～3月

- ① 校内の動植物を観察し、調べ学習をする。必要があれば、観察対象を広げていく。
- ② クリーンセンターと下水処理場を施設見学。事前学習として、家庭のごみ・水調べをした。
- ③ 水辺の学校Ⅰ 大津川の河川敷清掃・川の生き物に触れる体験。
- ④ 身近にある自然環境のまとめ。新聞作成。
- ⑤ 環境問題についての調べ学習(水質、大気汚染・土壌汚染・ごみ問題・多様性生物など)
- ⑥ 水辺の学校Ⅱ 森林インストラクターによる葎についての出前授業。
- ⑦ 環境問題についてのまとめ。新聞作成。
- ⑧ 身近にある大津川についての調べ学習。
- ⑨ 水辺の学校Ⅲ 牛乳パックを使った紙すき(はがき)
- ⑩ 水辺の学校Ⅳ 葎を使った紙すき(A4)
- ⑪ エネルギー環境教育。
- ⑫ 水辺の学校Ⅴ 葎でできた紙を使って絵手紙を書く。
- ⑬ 身近な自然を守るために自分たちにできる取り組みを考え実践してみる。
- ⑭ 身近な自然を守ることについてのまとめ。新聞づくりと発表。



《指導のポイント》

- 学期ごとに設けられたテーマに沿って、自分の学習計画を立てる。
- 調べたことは総合ノートにまとめ、学期ごとに新聞にし、3学期に1年間のまとめを発表する。
- 専門家と連携し、様々な体験学習を取り入れ、積極的に取り組めるようにする。
- 自分で興味のある課題を見つけることにより、主体的に学ぶようにする。
- 他の学習ともリンクさせる。(理科一年間を通した動植物の観察・音楽「MIDORI～繋がる輪～」)

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

泉大津市教育支援センター・鳳土木事務所・関西電力(株) 岸和田総務グループ・森林カウンセラー 青野瑞穂 氏

《成果(児童・生徒の感想や反応 等)》

- ・主体的に学ぶ中で環境問題についての知識を得、さらに自然環境をより身近な問題としてとらえることができた。
- ・様々な活動を通して、環境を守るために自分たちにできることを考え、実践することができた。

